

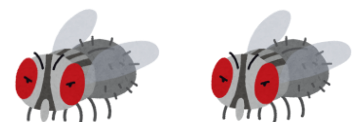
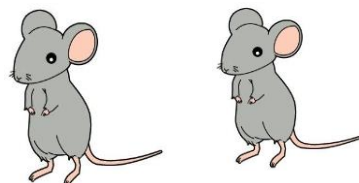
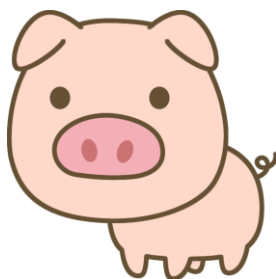


豚コレラの発生が継続しています

昨年9月に、国内では26年ぶり、岐阜県で豚コレラが発生し、今年になっても終息することなく、5月25日には岐阜県山県市で国内24例目の疑似患畜が確認されています。

農林水産省開催の拡大豚コレラ疫学調査チーム検討会でなされた提言を踏まえ、本病ウイルスの侵入防止、万が一の早期発見及びまん延防止に万全を期すため、下記の項目について遵守願います。

- 1 今回のウイルスが、感染個体が増加して症状が明確になるまで時間を要することを踏まえ、平時からの**丁寧な健康観察を徹底**すること。その際、改めて**豚コレラの特定症状（裏面参考）**を理解し、**早期発見を徹底**すること。
- 2 特に飼養者が立ち入る頻度の高く、ウイルスが侵入するリスクの高い分娩舎等において、**清掃・消毒・手洗い等を徹底**するとともに、**専用長靴を使用**すること。
- 3 ウイルスを伝播する可能性のあるネズミ、ハエ等の野生動物に万全を期すため、日頃から**殺鼠剤の散布**や、**消毒効果も含め、農場及び豚舎周囲への消石灰の散布**を念入りに行うこと。



豚コレラ、アフリカ豚コレラの特定症状 (家畜伝染病予防法第13条の2)

- 1 尾翼、下腹部、四肢等に紫斑があること。
- 2 同一の畜房内において、次のいずれかの症状を示す家畜が当日及びその前六日の七日間に増加していること。
 - ① 摂氏四十度以上の発熱、元気消失又は食欲減退
 - ② 便秘又は下痢
 - ③ 結膜炎
 - ④ 歩行困難、後躯麻痺又はけいれん
 - ⑤ 削瘦、被毛粗剛又は発育不良（ひね豚）
 - ⑥ 流産等異常産
 - ⑦ 皮下出血、皮膚紅斑、天然孔からの出血又は血便
- 3 同一の畜房内において、当日及びその前六日の七日間に複数の繁殖又は肥育に供する家畜が突然死亡すること。

なお、特定症状の内容は多様であるものの、**早期通報を促す必要性が高く**、国内で確認された全事例においていずれかの特定症状が確認されています。

異状を発見したら直ちに通報しましょう!

豚コレラ

2018年9月
日本で発生

特徴的な症状が無く、気がつきにくい疾病です!

発熱、食欲不振、元気消失等、うずくまり、便秘に続く下痢、呼吸障害等



うずくまり



豚房の隅に集まるパイルアップ



目やに

写真出典：国立研究開発法人農業食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部

重症例は後躯麻痺・運動失調・四肢の激しい痙縮などの神経症状、皮下出血による紫斑(耳翼、尾、腹部、内股部)を呈し死亡。

家畜に異状が見られたら直ちに

青森家畜保健衛生所にご連絡ください。

電話：017-764-1744

夜間・休日：090-2274-0474